

声が聴こえる 小川町に

柴崎真由美さん(後伊)
SHIBASAKI Mayumi



近気がついたこと、それは「町で子供の声を聴かなくなつた」ことです。新型コロナウイルスの問題が起きてからは特にですが、それ以前も感じていました。少し前に、近所の公園に未就学児の甥を連れて行ったときのことです。広場で子供を遊ばせていると、声をかけられました。いわく「ここはゲートボール場なので、別の場所で遊んでほしい」とのこと。その公園は私が小さい頃から遊んでいた場所でしたが、いつの間にかゲートボール専用の場所になっていました。確かに子供が少ない地域なので、そのほうが有効活用なのかもしれません。ただ、昔のように子供の声が聴こえる小川町になってほしい。考えさせられる出来事でした。

考えさせられる出来事でした。

まれも育ちも隣のときがわ町の私は、
生12年前に仕事の関係で小川町に越してきました。小さい頃ワクワクしながら八高線に乗り、駅前のスーパーの屋上やボウリング場、仙元山の滑り台などで遊びました。夏休みには竹飾りや花火大会でぎわう七夕まつりに圧倒され、子供ながらに「小川町は楽しい場所」と描いていました。それらの思い出は大人になった今でも色褪せることがなく鮮明に脳裏に残っており、町を愛する心へと熟成されたような気がします。新型コロナウイルスの影響下、今夏の七夕まつりの中止を惜しむ一人ではありますが、来年はうんと盛大に開催し、子供たちの記憶につまでも残り続けるようなお祭りになるよう協力をていきたい、と心に決めています。

来年の 七夕まつりは 盛大に

岡野健治さん(大関町)
OKANO Kenji



次の定例会は

8月31日(月)~

午前10時開会 ※日程は変更になる場合があります。
詳しくは議会HPへ

議員団 おがわぎかい No.80～議員がインタビューした町民みなさんの数

現在 343人

(★…今号取材)

年齢	人数
9歳～	2人
10代	30人
20代	48人
30代	65人
40代	63人
50代	46人
60代	57人
70代	25人
80代～	7人

• 今号の表紙 •

雨にも負けず…元気な筆顔

毎朝の防犯パトロールで会うのが
遅しになりました

乗りました。
幼稚園バスを待つ「小川町の家」です

編集後記

小川町のよさの一つに「自然災害の少ない安全な町」があった。しかし、昨秋は、台風の影響による長時間豪雨で、町内全域が未曾有の被害に見舞われた。異常気象が常態化すれば異常ではない。今後、自然災害から命を守る町づくりが重要課題となる。今号では、台風シーズンに備え「安全神話に? (クエスチョン)」を特集として掲載した。新型コロナ感染症の終息は見えてこない。私たちは、こうした自然の脅威と共存できる力を蓄えなければならぬ時代を迎えたようだ。(高橋功)

発行責任者: 小川町議会議長 大戸久一

元内閣官房副議長大久保編集:議会広報發行特別委員会

議公法報児行付別委員会 委員長 高橋さゆり 副委員長 笠原規弘

委員長 高橋功人・副委員長 笠原英彦・監修・五十嵐康博
委 員 笠原英彦・高橋功人・笠本孝幸・五十嵐康博

UD
Font



高齢者や視覚の弱い方にも配慮したUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています